中学１年生の実践

１．題材　　合唱祭～クラスみんなで心をひとつに、笑顔のために～

２．題材について

学校行事の中で運動会と並んで大きな行事となる合唱コンクール。コロナウイルス感染症対策の一環で、コンクール形式ではなく合唱祭という発表会形式となった。歌う事への羞恥心や苦手意識があるものの、運動することに比べて生徒個人の差が少ない。その分、生徒同士の「なんでできないの？」という気持ちがぶつかり合ってしまうことも少なくない。

クラスや学校生活にも慣れてきて、クラスとしての集団意識も芽生えてきている時期に実施されることから、生徒主体で行事までの過程を考え進めてきたらどのような効果が見られるかと思い実践してみた。基本的に教師からの声かけは控え、投げかける言葉も「どうする？」「どうしたい？」を主にすることを心がけた。

３．指導について（指導の手立て）

① 生徒が PDCA を回す主体的な行事にするために
- 敢えて教師が口出ししないスタンス
- Google フォームを活用した合唱祭に向けたアンケートの実施
  練習内容や、どのように本番までクラスで取り組んでいくかなど生徒に投げかけ、生徒主体で進めていくように仕掛けた。
- 練習日程の中盤で生徒が再度自分を振り返る場を設ける

② 生徒にとって必要な合意形成にするために
- 学級で目標を共有するための話し合いの場の設定
- 練習日程の中盤に再度、目標の見直しを行う
  行事の中で自分にできることは何か？を個人で考えさせ、練習が進んだ中盤に再度目標の見直し、追加を行った。

③ 自己肯定感を育むために
- 賞状の作成による相互評価
- 歌うことへの羞恥心や苦手意識、個人差があることを伝える

運動会でも作成した個人賞を考え、賞状を一人一枚作成した。練習開始時に作成することで練習中に誰に自分の賞状を渡すか、友達の良いところを見つけながら練習に参加することができていた。

４．中学校１年生の特別活動の目標（評価）

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上の自己実現に必要となる情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身につけている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

５．年間で関連をはかって扱っていく題材（年間計画）

望ましい集団の中で主体的に取り組む子どもたちをめざして＜年間計画＞

４月 → ９月 → ３月

運動会

☆友達のいいところを見つけよう！～1st　stage～

①作戦会議・４組らしく参加する

練習の流れや競技のコツなどは教員から伝えました。しかし、練習が進むにつれて生徒たちから「こうしてみたい」「こうやったらどうだろう？」という声が挙がるようになり自分たちで工夫すること、その難しさを学ぶことができました。

②メダル作り・授与

学校生活にもクラスにも慣れ始めて、出身小学校に関わらずいろいろな友達と関わることが増えて来たこの時期に、運動会を通して友達のいいところを見つけよう！と教師から声かけ。いくつか方法を挙げると、その中か「〇〇賞」を作ってお互いにメダルを渡そう！という意見が生徒から出てきました。

みんなで頑張る定期テスト！

☆定期テストに向けてクラス全員で頑張ろう！

①テスト勉強計画表（学年全体で実施）

計画表を３週間前から配布。30 分ごとに１コマすすめるグラフ付き。クラス全員が最後のコマまで進めるようにどうしたらいいか考えよう。

②休み時間学び合い

テスト１ヶ月前にクラス全体に声かけを行ったところ、生徒から「休み時間に友達同士で教え合いたい」との意見が出ました。今日は誰が何を教えるか呼びかけを行い、昼休みに実施。授業中の学び合いや教え合いが自然と行えるようになっていました。

合唱祭

「クラスみんなで心をひとつに」をテーマに掲げ、

☆友達のいいところを見つけよう！～2nd　stage～

①Google フォームを使ったアンケートの実施

②アンケート結果からクラスでの話し合い

（クラス目標や個人目標の設定、どのように他者評価を取り入れるかなど）

③練習開始後、再度話し合いを実施

④賞状形式での他者評価の実施

⑤振り返り

２年生になる心構え

☆１年間を振り返って、自分の成長に気づき認めよう！

①生徒への投げかけ

１ 年間の学校生活を通して、どのように振り返りをおこないたいか、クラスとして最後にどんなことをしたいのか話し合いを行う。→今までの経験を生かし、生徒からの意見を中心に実施内容を決定。

②１年後、２年生の最後までにどんなことができるようになっていたいか長期目標を持たせる。

③１年後の自分宛に手紙を書く

６．実践の実際

合唱祭までのスケジュール

６月下旬から７月　合唱曲の選曲、伴奏者決定
９月　指揮者決め、合唱祭に向けてのアンケート実施（下旬）
10 月　合唱練習開始（朝、登校後 15 分間・音楽の授業）
10 月 11 日頃　個人目標の見直し
10 月 22 日　小田原三の丸ホールにて合唱祭実施
10 月下旬　振り返り、賞状授与

☆指揮者選出

ピアノ伴奏者は経験者の生徒に声を掛けお願いしたが、指揮者については生徒に意見を聞き話し合いで決めさせた。（教員主導）
指揮者選出するにあたって、

① どのような人がふさわしいか
② ふさわしいのは誰か（押しつけるのではなく、ふさわしい人を選ぶ）
③ 自分はどんな協力ができるか

を考えさせて、話し合い活動を行った。（実行委員を中心に話し合いを行う）
話し合いの場ではなかったが、立候補した生徒も複数名いた。
指揮者決定は生徒全員が伏せた状態で手を挙げて、指揮者にふさわしい人に投票する形を取った。
（集計は実行委員と担任で行った。）
今回、選ばれなかった生徒はパートリーダーを引き受け、別の形でクラスのために活躍していた。

★失敗した点

生徒から名前が挙がった生徒の中には「どうしても指揮者をやりたくない」生徒もいた。周囲の生徒の期待と、本人のやる気が合わなかった。事前に教員からだけでなく、生徒同士で声かけを行うことで指揮者を引き受けてくれる可能性が上がったかもしれない。

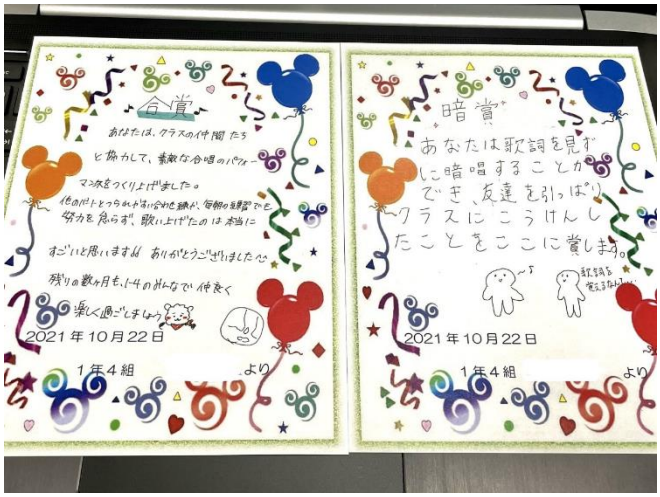
Google フォームの活用がうまくできず、紙アンケートでも良かった。

☆練習開始前の事前アンケートの実施　（ワークシート①参照）
実際は Google フォームを使用して、アンケートを取った。
内容は次の５項目。
①合唱祭に向けてどんなことをしたらいいと思いますか？（記述式）
②自分にできることはどんなことだろう？（記述式）
③クラスのみんなでどんなことを決めたい？（記述式）
④あなたのパートを教えてください。（選択式）
⑤合唱を通してどんな体験ができると嬉しいですか？（記述式）
目的としては、ただ歌わされる合唱祭にするのではなく一人一人が主体的に参加するため。

そのためにクラス目標だけでなく、個人目標や自分ができること・頑張ろうと思っていることを項目に入れた。
　また、その後に合唱祭に向けての個人目標を立てさせた。その際に「これだけは自分で守りたいこと、頑張りたいことを書いてみよう」と具体的に挙げられるように例示もした。

☆事前アンケートを基に話し合いの実施
　実行委員を中心に 1 時間の話し合いを行った。アンケートの内容を中心にクラス全体で意見を出し合い、
①クラス目標
②合唱祭に向けてクラスで取り組みたいこと
③パートごとにパートリーダー決め
④パートごとに集まってどういう練習をするか
の４つについて決定した。

②クラスで取り組みたいことについては、運動会で生徒一人一人が賞を作り、メダルの形で渡し合うことをしていたので、今回も同じように個人で賞を作り何か渡したいとのことだった。→賞状を作成



自分が作った賞にふさわしい友達に賞状を渡すので、一人で何枚も貰う生徒がいる反面、一枚も貰えない生徒が出てしまう。仲良い友達同士だけでなく、クラスの友達全員に対して良いところがないか探しながら練習・本番に取り組んで欲しいので、担任から全員に１枚ずつ賞状を渡すことで一枚ももらえない生徒が出ないようにした。

☆練習開始 10 日ほど経ったあたりで、個人目標・練習内容の見直し
　コンクール形式ではなく、発表会形式であり合唱するのが１曲であること、合唱練習の時間設定が朝登校後の 15 分であることから練習期間の３週間で生徒の中での飽きにつながってしまうのではないかと懸念していた。ソプラノ・アルトパートは積極的に練習に取り組んでいるものの、テノールパートは声が出しづらいことから集中力が続かず練習に身が入らない生徒が一定数出てしまった。
　そこで、練習内容について「どうしたら良いか？」を投げかけた。ソプラノ・アルトパートはパートリ

ーダーを中心にパート練習のあとに合わせて練習し、音程やリズムがつられないようにしていた。テノールパートは元から声が出しづらいこともあり、声量が思うように伸びなかったのだが腹式呼吸を意識して「ヤッホー」と発声練習をするといいとアドバイスをすると喜んで「ヤッホー」を連呼していた。また、体勢を横にしてお腹に手を当てながら歌う練習も取り入れてみた。

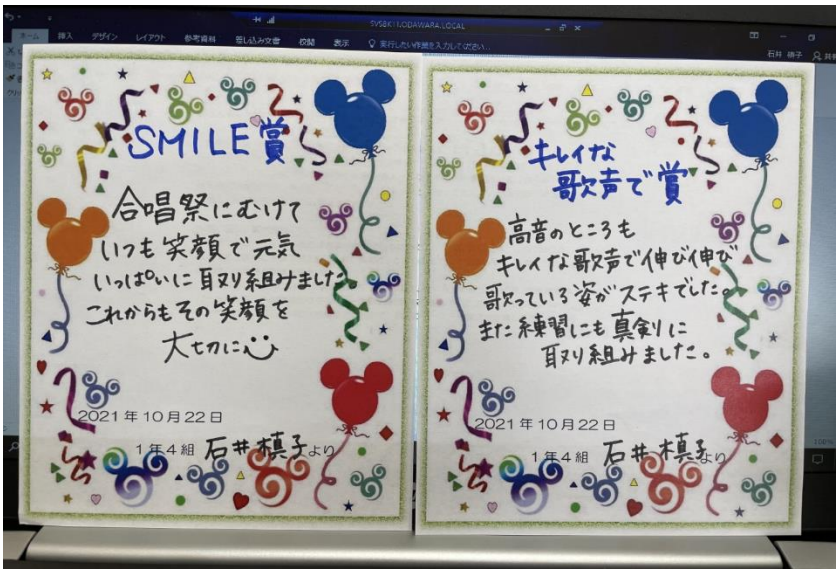
★テノールパートに関しては、練習内容を主体的に考えることがあまりできず、担任からのアドバイスがメインになってしまった。今年度の経験を生かし、来年度は自分たちで練習内容を工夫できるようになるとよい。

☆音楽の授業を経て、どんどん良くなっていく合唱

パート練習やクラスでの合唱練習だけでは、どうしても自信が持てずに声が出せないでいた。しかし音楽の授業で発声方法のコツを学び「自分たちは歌えるんだ！」という自信が持ててからの合唱はとても良くなっていった。

授業から戻ってくると「先生！テノールがすごく歌えるようになってる！」と嬉しそうに報告してくれるソプラノパートの生徒や、「俺たちめっちゃ声出た！ソプラノアルトに勝ちそう！」と自信を持てたテノールパートの生徒が多く、お互いに歌えるようになったことを褒め合い喜び合う姿が多く見られた。休み明けの練習では、声が出しにくくなってしまうことはあったものの、自信を持てた生徒たちの歌う表情はどんどん良くなっているように感じた。

☆振り返り、賞状授与

合唱コンクールの振り返りは音楽の授業で行ったので、クラスの取り組みとしての振り返りを行った。歌うことが苦手でも「楽しく取り組めた」と振り返っている生徒も多く、先輩たちの合唱を聴いて次年度への期待を話す生徒もいた。

賞状授与は、自分の作成した賞状を持ち、賞状を授与したい友達に渡した。ピアノの伴奏者や、指揮者、パートリーダーへの授与だけでなく、一生懸命練習へ取り組んでいた生徒への授与も見られた。また、一人一枚の授与にならないことも想定されたので、担任から一人一枚賞状を作成し手渡した。